

ちょうかくしょうがいしゃ
聴覚障害者

さいがいしえん
災害支援ハンドブック

はんしん あわじだいしんさい けいけん
～阪神・淡路大震災の経験から～
(テキスト版)



ひょうごけんりつちょうかくしょうがいしゃじょうほう
兵庫県立聴覚障害者情報センター

目次

P1：災害時、聴覚障害者は・・・

P2：聴覚障害者のコミュニケーション方法

P3：指文字を覚えよう、コミュニケーション時の注意点

P4：聴覚障害者が災害時に困ること・支援の留意点

P5：盲ろう者への支援・コミュニケーション方法

P6：避難所での情報提供について、聴覚障害者に関する連絡先等

★さいがいじ ちようかくしやうがいしや 災害時、聴覚障害者は・・・

じやうほう じやうへき
情報とコミュニケーションにバリア(障壁)があります。

ちようかくしやうがいしや おと じやうほう え むずか こえ つか
聴覚障害者は、音から情報を得ることが難しく、声を使ったコミュニ
ケーションができません。にちじやう せいかつ つか つか
日常の生活においても自分の言いたいことが伝わ
らなかつたり、き きんきゆう じやうほう と のこ じやうほう
聞こえないために緊急の情報からも取り残されるなど、情報
とコミュニケーションに大きなバリアがあります。はんしん あわじだいしんさい
阪神・淡路大震災のとき
も、がっこう こうみんかんだい ひなんじよ しょくりよう きゆうえんぶつしなど はいふ
学校や公民館等が避難所となり、そこでは食料や救済物資等が配布さ
れました。しかし、じやうほう こうないほうそう かくせいき つか おんせい あんない
そうした情報が、校内放送や拡声器などを使い音声で案内
されたため、ちようかくしやうがいしや はいきゆう きやうれつ め きやうれつ
聴覚障害者は、配給の行列は目にして、なんの行列なの
か知ることができず、はいきゆう う おお
配給を受けられないことも多くありました。

また、しんさい ふっこう やくしよ おお じむてつぷ しゅわ
震災からの復興にむけ、役所で多くの事務手続きがありましたが、手話
のできる人がいない窓口では、せつめい じやうぶん う
説明を十分に受けられませんでした。

さいがい はっせい ふっこう あいだ き さまざま こんなん し
災害が発生し、復興するまでの間、聞こえないことで様々な困難を強いら
れたはんしん あわじだいしんさい けいけん ちようかくしやうがいしや さいがいじ こま
阪神・淡路大震災の経験をもとに、聴覚障害者が災害時に困ること、
ちようかくしやうがいしや しえん ひつよう はいりよ りやういてん ひとり おお
聴覚障害者への支援で必要な配慮や留意点をまとめました。一人でも多くの
ひと さいがいじ ちようかくしやうがいしや じやうきやう りかい ちようかくしやうがいしや
人に災害時における聴覚障害者の状況をご理解いただき、聴覚障害者へ
の支援に役立てていただきたいと思ひます。

ちょうかくしょうがい ほうほう
 ☆聴覚障害者のコミュニケーション方法

ちょうかくしょうがいしゃ う まった き しゃ けいどなんちよう こうど
 聴覚障害者は、生まれつき全く聞こえないろう者、軽度難聴から高度
 なんちよう なんちようしゃ せいちよう かつい ちょうかく うしな ちゅうとしっちょうしゃ さまざま
 難聴までの難聴者、成長する過程で聴覚を失った中途失聴者と様々です。
 しっちょう じき ろだ かんきょうなど ほうほう こと
 失聴した時期や育った環境等により、コミュニケーション方法も異なります。
 ひと あ ほうほう じょうほう った
 その人に合わせた方法で、情報を伝えてください。



◆^{しゅわ}手話 ^{て からだ め うご がお ひょうじよう つか はなし}手、体、目の動き、顔の表情などを使い話をします。

◆^{ひつだん}筆談 ^{かみ て かみ も じ かく}紙や手のひらに文字を書きます。ポイントを

^{かんけつ わ}簡潔に分かりやすく、ひらがなだけではなく、

^{かんじ もち わ やす}漢字も用いたほうが分かりやすいです。

◆^{どくわ こうわ}読話（口話）^{あいて くち み て ことば よ と ほうほう}相手の口を見て、言葉を読み取る方法です。

^{くち おお あ はな}口を大きく開け、はっきり話してください。

^{くち うご わ あか ばしょ はな}口の動きが分かるように、明るい場所で話しましょう。

^{おおざえ ひつじょうじよう はな わ}（大声や必要以上にゆっくり話すとかえって分かりにくいです。）

◆^{くうしよ}空書 ^{くうちゆう も じ かく}空中に文字を書きます。

◆^{み ぶ}身振り ^{からだ うご つか った}体の動きやジェスチャーを使って伝えます。

◆イラスト ^{ぶんしやう にがて かつた ゆうこう}文章が苦手な方には有効です。

◆^{けいたい}携帯メール ^{がめん つか あいて った ほうほう}メール画面を使って相手に伝える方法です。

◆^{ゆび も じ}指文字 ^{おん ゆび かつち ひやうげん}50音を指の形で表現します。

ゆび も じ おほ
指文字を覚えましょう

あ IあIから	い IいIから	う IU Iから	え Ie Iから	お IO Iから	は はさみ	ひ 手紙の数字(1)Dとつ	ふ カタカナのフ	へ カタカナのヘ	ほ 舟の帆
か※ Ik Iから	き 数字のせつね	く 手紙の数字(4)	け 話線不明 アルファベットの(8)	こ カタカナのコ	ま (前)から	み 手紙の数字(3)	む 手紙の数字(5)	め 「目」のがたち	も※ 「も」手紙の「間」
さ Is Iから	し 手紙の数字(7)	す カタカナのス	せ 食高のっほ	そ 代名詞「それ」	や IY Iから	ゆ 虫の翼	よ 手紙の数字(4)	濁音(ワ) (例・ぎ) 横に移動させる	半濁音(ロ) (例・ロ) 上に移動させる
た It Iから	ち 数字の「手」=「チ」	つ カタカナのツ	て 「手」そのもの	と OOとOOの(と)	ら Ir Iから	り カタカナのリ	る カタカナのル	れ カタカナのレ	ろ カタカナのロ
な In Iから	に カタカナのニ	ぬ 手紙の「蓋む」	ね 木の根	の カタカナのノ	わ IW Iから	を 指文字「お」で促音 同様原則に引く IO Iから	ん カタカナのン	促音・拗音 (O→O) (例・OzO)	長音 (O→O)

★指文字は相手（正面）から見た図です。（※については正面よりやや右から見たものです。）

注意点；聴覚障害者は、後ろから呼びかけられても、ほとんどの人が気づき

ませんが、無視をしているわけではありません。

また、発声ができても、聴覚に障害ある人もいて、

聞こえないことに周囲が気づきにくいこともあります。

反応がなければ、軽く肩を叩いて正面にまわってコミュニケーションをとっ

てください。

ちょうかくしょうがいしゃ さいがいじ こま しえん りゅういてん
★聴覚障害者が災害時に困ること・支援の留意点

さいがいじ こま
◆災害時に困ること・・・

こうほうしゃ こえ よ
サイレンや広報車、声による呼びかけ、
 ひなんじよ かんないほうそう き
避難所での館内放送が聞こえない

じょうほう
**情報の
 バリア**

たと ほうほう
◆例えば、こんな方法で・・・

ほうほう ちょうかくしょうがいしゃ おお こえ はな き しゅわ かつだん
方法① 聴覚障害者に、大きな声で話せば聞こえるのか、手話、筆談が
 ひつよう ほうほう かくにん
必要か、コミュニケーション方法を確認してください。

ほうほう しゅわ こうわ かつだんなど ひつよう じょうほう った
方法② 手話ができなくても、口話や筆談等で必要な情報を伝えてください。

ちょうかくしょうがいしゃ き ひつよう じょうほう った
聴覚障害者は聞こえないために、必要な情報が伝わらなかったり、
 きんきゅうじたい き おく みなさんのちよっとした配慮で、
 緊急事態に気づくことが遅れがちです。みなさんのちよっとした配慮で、
 じょうほう と のこ あんしん え
情報から取り残されることなく、安心も得られます。

さいがいじ こま
◆災害時に困ること・・・

しゅうい
周囲とのコミュニケーションがうまくいかず
 ひなんじよ こりつ
避難所等で孤立してしまいがち

コミュニケーションの
バリア

ちょうかくしょうがい がいけん わ しょうがい じぶん ちょうかく
聴覚障害は外見からは分かりづらい障害であるため、自分が聴覚
 しょうがいしゃ しゅうい わ ひなんじよなど こりつ
障害者であることが周囲に分かってもらえず、避難所等で孤立しがちです。

たと ほうほう
◆例えば、こんな方法で・・・

ほうほう こま ようす こえ
方法① 困っている様子の方がいたら声をかけてあげてください。

ほうほう だの か でんわ
方法② 電話を頼まれたら、代わりに電話をしてあげてください。

ほちょうき すべ かいわ き
(補聴器をつけていても全ての会話が聞こえるわけではなく、
 でんわ れんらく ちょうかくしょうがいしゃ おお それぞい
電話で連絡ができない聴覚障害者が多く存在します。)

★^{もう}盲ろう者への支援・^{しや}コミュニケーション^{しえん}方法^{ほうほう}

^{もう}盲ろう者とは、^{しかくしやうがい}視覚障害と^{ちやうかくしやうがい}聴覚障害を併せ持つ^{あわ}人の^もこと^{ひと}です。

^{もう}盲ろう者は、その^み見え方^{かた}や^き聞こえ方^{かた}の^{ていど}程度により、^{おお}大きく^{おお}おけると^{つぎ}次の4つのタイプになります。

- ^{ぜんもう}全盲ろう ^{まった}全く^み見えなくて^{まった}全く^き聞こえない人
- ^{ぜんもうなんちやう}全盲難聴 ^{まった}全く^み見えなくて^{すこ}少し^き聞こえる人
- ^{じやくし}弱視ろう ^{すこ}少し^み見えて^{まった}全く^き聞こえない人
- ^{じやくしなんちやう}弱視難聴 ^{すこ}少し^み見えて^{すこ}少し^き聞こえる人

◆^{たと}例えば、^{ほうほう}こんな方法で・・・

- ◆ ^{おん}音 ^{せい}声 ^{もう}盲ろう者の^{しや}耳元で^{みみもと}声を出して^{こえ}伝える^だつた
- ◆ ^{ひつ}筆 ^{だん}談 ^{もう}盲ろう者に^{しや}見える^み字の^{だい}大きさを^{おお}筆談する^{ひつだん}
- ◆ ^{しよくしゅわ}触手話 ^{もう}盲ろう者の^{しや}手をとって^て手話をする^{しゅわ}
- ◆ ^{てが}手書き^も文字 ^て手の^{ひら}ひらに^{ゆび}指で^も文字^かを書く

^{もう}盲ろう者は、^{しや}自力での^{じりき}移動が^{いどう}困難^{こんなん}です。^{きんきゆう}緊急^{さい}の際には、

一緒に^{いっしょ}移動^{いどう}する等のご^{はいりよ}配慮^{ねが}をお願いします。

☆避難所での情報提供について・・・

聴覚障害者には、見てわかる情報提供が必要です。

例えば、こんな配慮が必要です。↓

- ・放送される内容は、掲示板やホワイトボードに書く。
- ・情報を書いた紙を貼り出す。
- ・「耳の聞こえない人はいますか？」「手話通訳は必要ですか？」と紙を貼り出す。

手話通訳者、要約筆記者、盲ろう通訳・介助員を派遣する制度もあります。聴覚障害者が居たら、災害対策本部や聴覚障害者情報センター、聴覚障害者団体、行政の福祉事務所等に連絡をしてください。

◆聴覚障害者・手話通訳等に関する問い合わせ先（兵庫県）

- 兵庫県立聴覚障害者情報センター T078-805-4175 F078-805-4192
- 社団法人兵庫県聴覚障害者協会 T078-371-5613 F078-371-0277
- 兵庫県健康福祉部障害福祉局障害者支援課
T078-341-7711 F078-362-9040

発行：兵庫県立聴覚障害者情報センター 社団法人兵庫県聴覚障害者協会 災害対策委員会

発行月：平成23年8月

参考資料：財団法人全日本ろうあ連盟発行

「たっちゃんとうまぼう」「避難所等での聴覚障害者に対する支援のお願い」

神戸市西区聴覚障害者災害対策委員会発行 「聴覚障害者支援マニュアル」

イラスト：栗山 美津代 製本・印刷：株式会社 奥井印刷

◆このマニュアルについての問い合わせ先

兵庫県立聴覚障害者情報センター

電話：078-805-4175 FAX：078-805-4192

